



session 1

CBL所蔵資料を読む 版本（1）





くずし字を読むには

○異体字を知ること・慣れる

○旧漢字のくずし字の可能性

も留意すること

○意味を考えつつ、字を読む

こと（知らないことばの可能性

性を想定する）切れ目が難

○素材の特徴を考えること

版本／写本 韻文／散文

流通するもの／仲間内

○会話は要注意！



主要変体が一覧表

わ行	ら行	や行	ま行	は行	な行	た行	さ行	か行	あ行	
倭 和 い 王 ○	羅 良 良	屋 也 夜 也	萬 末 満 万	盤 波 半 者	那 奈 難 奈	多 太 堂 多	散 左 斜 佐	閑 加 賀 可	愛 安 惡 阿	あ 段
遺 為 井	里 利 李 利		美 美 見 美	悲 比 非 飛	丹 仁 耳 尔	千 知 遅 地	事 之 新 志	起 幾 支 幾	移 以 意 伊	い 段
	流 留 類 留	遊 由 游 由	無 武 舞 武	婦 不 風 布	努 奴 驚 怒	津 川 都 徒	須 寸 敷 春	求 久 俱 具	有 宇 雲 宇	う 段
衛 恵 漸 衛	礼 礼 連 禮		面 女 免	辺 下 弊 遍	年 祢 念 祢	帝 天 傳 亭	勢 世 聲 世	遣 計 希 介	要 衣 盈 江	え 段
ん 无 し 无	越 遠 乎 遠	路 呂 露 呂	余 与 餘 与	茂 毛 裳 毛	本 保 報 保	能 乃 農 乃	東 止 度 登	楚 曾 所 曾	於 於 於 於	お 段



覚えておくと宜いくずし字

32
【乍】

サ
たちま
なか
ま

乍
乍
乍

1901
【歟】

ヤ
ヤ
カヨ
カ

歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟
歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟
歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟
歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟 歟

39
【也】

ヤ
ヤ
ナリ
ナリ

也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也

159
【候】

コウ
コウ
ガ
ガ

候 候 候 候 候 候 候 候
候 候 候 候 候 候 候 候
候 候 候 候 候 候 候 候
候 候 候 候 候 候 候 候

2022
【被】

ヒ
ヒ
ヒ
ヒ

被 被 被 被 被 被 被 被
被 被 被 被 被 被 被 被
被 被 被 被 被 被 被 被
被 被 被 被 被 被 被 被

くずし字の様々なツール紹介

<https://guides.library.upenn.edu/japanesedigitalresources/kuzushiji>



Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

花扇廓邯鄲 CBLJ1703.2



【書誌】刊本。図は墨摺り。絵師未詳。
袋綴（4つ目綴じ）1巻1冊。
21.9×15.5cm。表紙、原表紙、麻の
葉つなぎに小松と菊花の丸模様（行成
表紙）、外題、原題簽「新板花扇廓邯
鄲 全」（左上、紅紙子持罫枠摺題
簽）。見返し、白紙。料紙、楮紙。丁
数、6丁半、構成、半丁図1図、見開
き図6図6丁。

【内容】西川祐信の次の世代の絵師に
よる絵本と考えられるが未詳。内容は、
宝暦12年（1762）初演の浄瑠璃『花
扇邯鄲枕』と関係がある。（浅野秀
剛）



【テキスト】

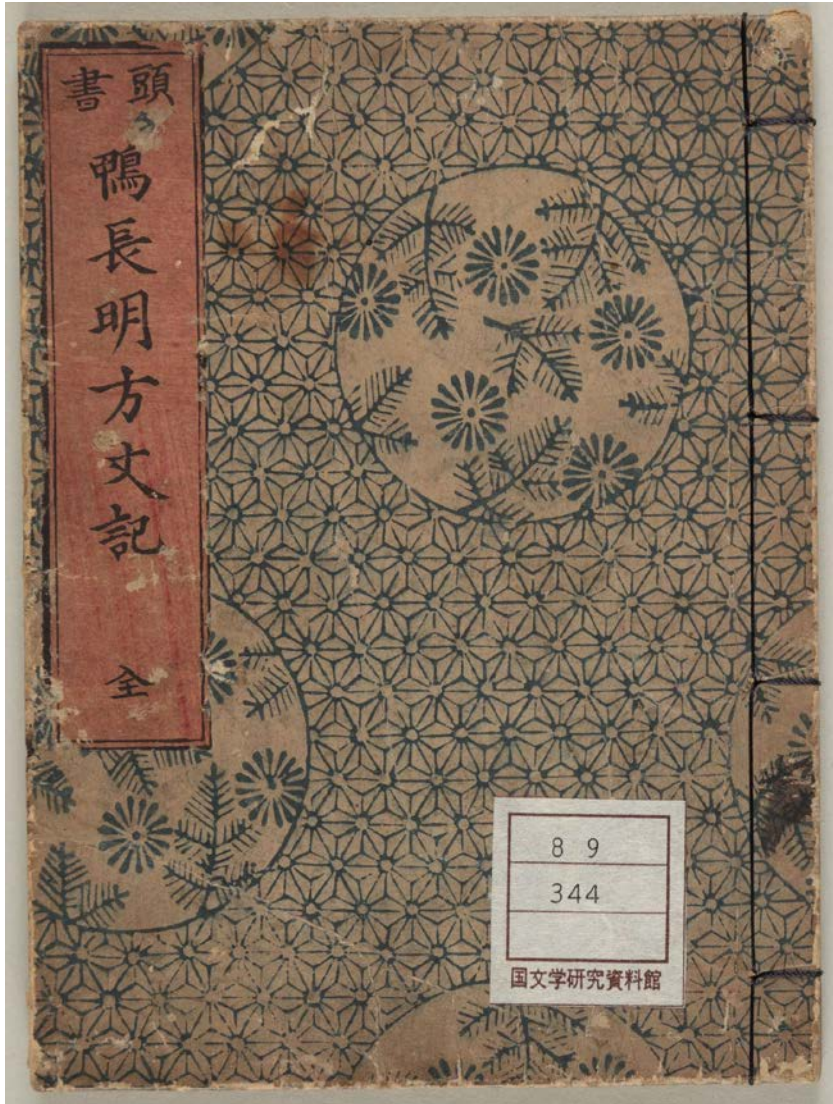
※ 『新板花扇廓邯鄲』 Hanaogi kuruwa kantan, CBL J
1703.2

Hanaōgi of the district of ephemeral splendour
(Hanaōgi kuruwa kantan)

https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_1703_2/1/



(参考) 表紙模様について



国文研「表紙文様集成」

www.nijl.ac.jp/pages/images/hyousimonyou.pdf

表紙の文様について - 国文学研究資料館

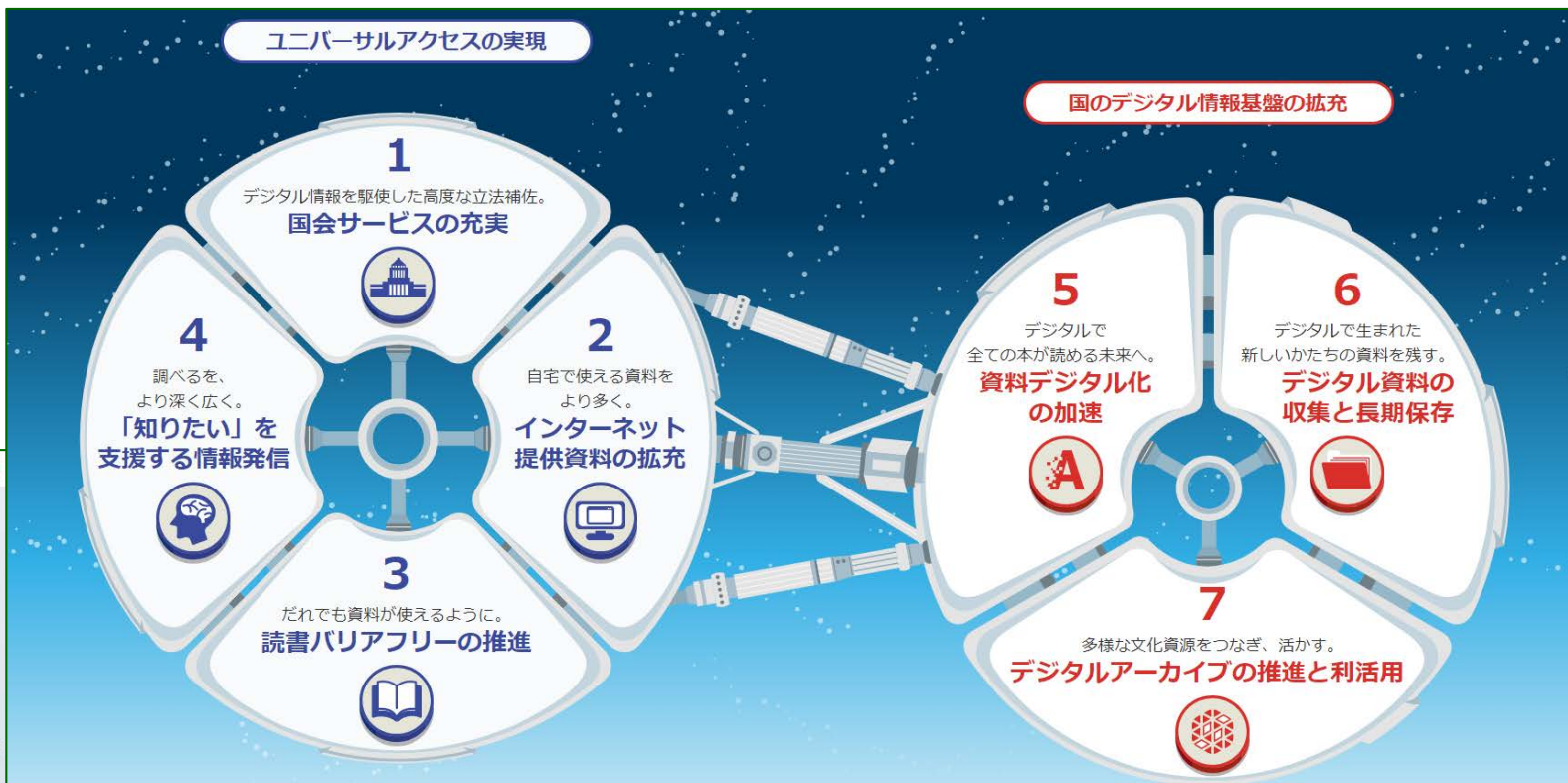
www.nijl.ac.jp/event/img/H29-kotenseki03.pdf

麻の葉地に小菊と若松の丸散らし文様



ビジョン2021-2025 国立国会図書館のデジタルシフト

<https://vision2021.ndl.go.jp/#vision>



2.2億枚の国会図書館資料をLINE「CLOVA OCR」でテキスト化

LINEは、国立国会図書館が保有する247万点、2億2,300万枚を超えるデジタル化資料のOCRテキストデータ化プロジェクトに「CLOVA OCR」が採用されたと発表。



テキストを見つける 国会図書館デジタルコレクションの活用

<https://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館デジタルコレクション

言語(Language): 日本語

すべて ▼ 花扇 邯鄲 検索 🔍

全文検索 詳細検索 インターネット公開 図書館送信資料 国立国会図書館内限定

簡易検索: 資料群=すべて キーワード(全文検索)=花扇 AND 邯鄲 公開範囲=インターネット公開 OR 図書館送信資料

絞り込み

デジタル化資料: 図書

公開範囲

インターネット公開資料(5)

国立国会図書館/図書館送信限定(3)

デジタル化資料

図書(8)

NDC分類

02 総記(1)

72 芸術(2)

92 文学(5)

出版年

1880~1889(1)

1890~1899(1)

1900~1909(1)

1910~1919(3)

1920~1929(1)

1950~1959(1)

巻号を省略

雑誌等の巻号を省略(8)

検索結果(8件中 1-8件表示) 20件ずつ表示 タイトル昇順 第2ソート条件 再表示

1 歌麿: 秘蔵版 国立国会図書館/図書館送信限定 (図書) 喜多川歌麿 画[他] (日本美術社, 1956) 目次: 巻本 目次

2 戯曲十人集 国立国会図書館/図書館送信限定 (図書) (共同出版, 1908) 目次: 花扇 邯鄲 目次

3 支那戯曲集 (図書) 今関天彭 著 (東方時論社, 1917) 目次: 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲

4 支那戯曲集 国立国会図書館/図書館送信限定 (図書) 今関天彭 編著 (東方時論社, 1917) 目次: 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲

5 新編大和文苑 第1冊 (図書) (富貴館[ほか], 1891) 目次: 花扇 邯鄲 目次

6 浄瑠璃名作集 下巻 (図書) 松山米太郎 校 (有朋堂書店, 1926) 目次: 花扇 邯鄲 目次

7 浮世の世の中: 続芸文 図書 風月庄左衛門 編 (風月庄左衛門) 目次: 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲

8 有朋堂文庫 (第118) (図書) 塚本哲三 等編 (有朋堂書店, 1917) 目次: 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲 目次: 花扇 邯鄲

国立国会図書館デジタルコレクション

言語(Language): 日本語

検索結果に戻る

浄瑠璃名作集 下巻

他の巻号を探す → 前の巻号 ←

コマ番号 193 / 322 50%

目次 巻号 書誌情報

土前目/281

土前目/290

前巻 浄瑠璃名作集 下巻/293~380

第一/293

第二/306

第三/330

第四/350

進行勢土屋/350

第五/371

花扇 邯鄲/422

花扇 邯鄲/422

上之巻/381

観劇の段/381

提議の段/392

史之巻/402

河原の段/402

堀川の段/409

工之巻/420

進行勢の段/420

聖徳太子の段/422

浄瑠璃名作集 下巻/422~524

御所懸堀川夜討

はひこめし、岩本の社へ歩を運び、諸分手奮の道を辨へ、つ寄らんと存じ、只今彼里へと急ぎ候。通ひなれし、道は昔に、いと編笠の一字、西にかたむく日影さへ、しゆじやかく出口なる、こんたんの宿に著きにけり。ハア、昔にかりたまらぬ、ア、浦山しの廊通ひと、人目忍ぶの軒の下昇夫内より出で、「ア、是々、諸なら聞きたうない、通りや」「どなたぞい」と笠を覗いて、「エ、イお前は、扱てもお前は久しや、命あればちや」「先御息災」「そなたも無事で重なる事を聞ふ、いはすと姿で推量しや。とかく傾城質と灰吹はと追出さるゝが一時、てつきりと廊へ行かば、色の褪めた灰う。そちは辛い顔もせず、はつばすつば、忘れぬ」「扱は氣の毒せんばいりで出来合を上らぬか、エ、折悪い御臺の「イヤ、只今は所望にない、心づかひ無用々々」「然らば一やお伽上げませう」と、押入より枕取出せば、「コリヤ珍しい

浄瑠璃名作集 下巻

原が家来ながら、昌俊と號をつき、自業自得果、終には轉きかなや、今日只今昌俊が名を藉つて殺さるゝは汝が損こます、喝」と言うて打つ太刀に、首は飛んでぞ死してけ土佐坊正尊、二人の土佐が名の紛れ、義經公に敵たひしは、ましくして、「家来といへどもさ敵なれば、柵原を討つ女中の預黒井の軍治罷出で、生きて静御前に仰付けられ役人残らず相詰め候。直に御覽有るやうや」と申上ぐれ度の勲功、勞をも晴す爲、早始めよと、御託も君が御代長き

花扇 邯鄲 枕

浮世の世に迷ひ来て、思をいつか暗さん。「是はなに色に身をやつた太夫、天神、あるひは夜發の假寐にも、を直に、名をも露情大盡と、もてはやされしも今ははや、となく、ひとともわかつ通ひしに、いまだ色道の悟を開か

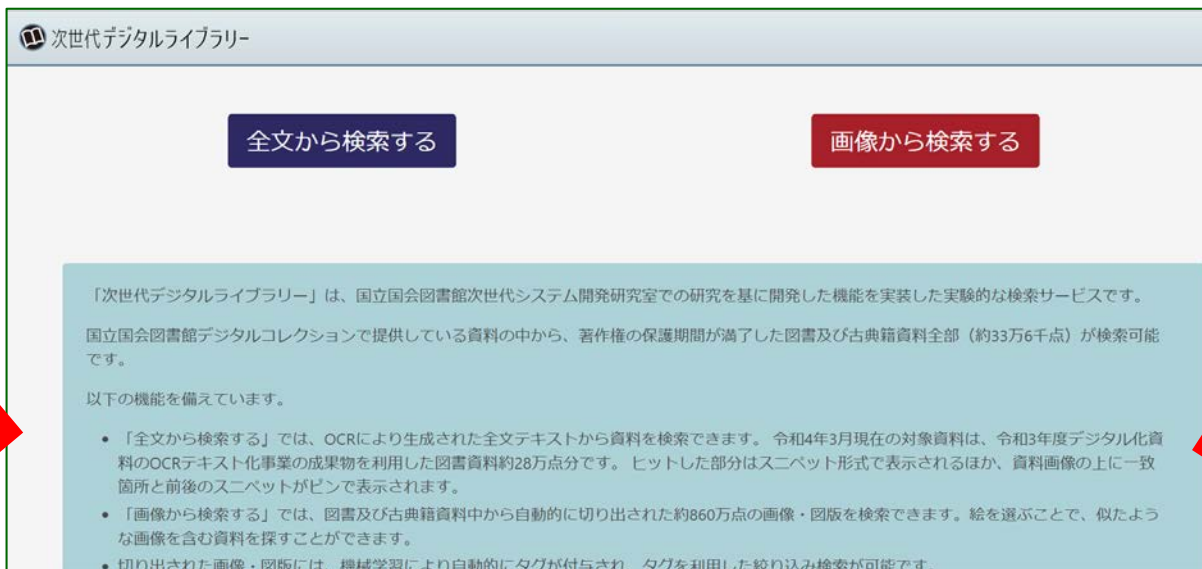
国立国会図書館ホームページ

Copyright © 2011 - National Diet Library. All Rights Reserved.

サイトポリシー



国会図書館 次世代デジタルライブラリー

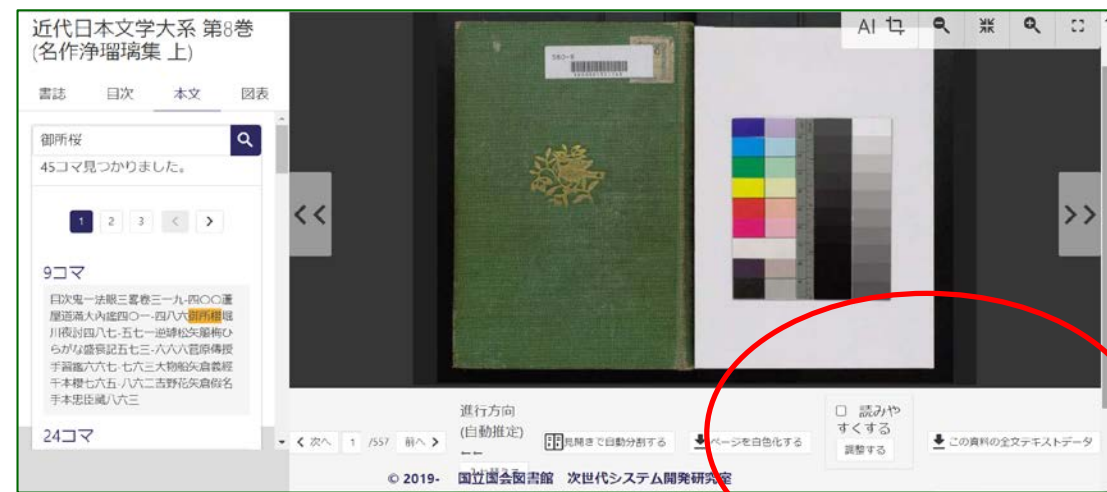


サービスURL

<https://lab.ndl.go.jp/dl/>

ソースコード

<https://github.com/ndl-lab/tugidigi-web/>





Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2



邯鄲か いや

只一睡を露情が

ろせいゑいぐわのゆめをみる

邯鄲一炊の夢

貧乏で立身出世を望んでいた盧生という青年が、趙の都、邯鄲で呂翁という仙人から、栄華が意のままになるという枕を借り、うたたねをしたところ、富貴をきわめた五十余年の夢を見たが、覚めてみると炊きかけていた粟(あわ)がまだ煮えないほどの短い間であったという、沈既濟撰「枕中記」の故事。また、枕をして眠ること。人の世の栄枯盛衰のはかないことのたとえにもいう。邯鄲の夢。邯鄲夢の枕。



Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2



邯鄲か いやこんたんの はり枕

只一睡を 露情がゑい花

ろせいゑいぐわの ゆめをみる

邯鄲一炊の夢

貧乏で立身出世を望んでいた盧生という青年が、趙の都、邯鄲で呂翁という仙人から、栄華が意のままになるという枕を借り、うたたねをしたところ、富貴をきわめた五十余年の夢を見たが、覚めてみると炊きかけていた粟(あわ)がまだ煮えないほどの短い間であったという、沈既濟撰「枕中記」の故事。また、枕をして眠ること。人の世の栄枯盛衰のはかないことのたとえにもいう。邯鄲の夢。邯鄲夢の枕。



『御所桜堀川夜討』五段目 花扇邯鄲枕

へ浮世の恋に迷ひ来て／＼、思ひをいつか晴らさん。是れは色里の傍に住む者なり、我好色に身をやつし、太夫、天神、あるひは夜発の仮寝にも、**露の情を受けしより、露の情の文字を直に、名をも露情大尽ともてはやされしも、今は**はや、親の勘気に肌寒き、紙子の皺のよるとなく、昼ともわかず通ひしに、いまだ色道のさとりを開かず、まことや**在原業平**を、好色の神にいはひこめし岩本の社へ歩みを運び、諸分手管の道を弁へ、ついでなれば島原の、舁夫（おろせ）が方へ立ち寄らん（略）「然らば一種拵へて久しぶりのお杯、どりやお伽上げませう」と**押入より枕取り出せば、**「コリヤ珍しい色めいた文枕、謂れが聞たい。」「されば**其の張枕は、**此の里の妓様方紋日の催促、身請の相談、付文、投文、或は付合、間夫狂ひ、可愛い、憎い、嬉し、悲しの、種々無量の、文どもを一つに集めて、**鼻が仕事に、魂胆の張枕、**是れをなされてまどろみ給ひ、来方行末の悟りを御開き候へ、我等は其の間、酒の爛して参らん。」と、蒲団引き被せ入りにける





Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

〜物知りの
草紙は春秋
これは
夏花ときく
此にんぎよ見なされ
これは太夫さん御らいもん
ヤチャ／＼





Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

〜物知りのあめる草紙は春秋歟
これはやさしき夏花ときく
此にんぎよ見なされ
これは太夫さん御らいもん
ヤチャ／＼





花扇邯鄲枕

今此の里に川竹の、身をば流れに島原
の、ヨイヨイイサヨ出口の柳ふりわけ
て、恋と情のヨイサヨふた思ひ、結ぶ
契りは仇人へヨ今の妬みは誰ゆるぞ。

サイ、世渡るわざのかり枕、勤めの身
こそ便りなやと、便りもとめて、又爰

の里に名うての太夫職、ぬき八文字の
つれ道中、今日もかはらぬ花の宿、も

んじがもとに入り来れば、幫間の喜作
立ち出で、「ヨウ見事々々、夏花様、

冬菊様、二季相ならびしお姿、月花は

磯一對の珊瑚の玉、色をくらべる二人
の君は、露情様のほだしの種、いかな

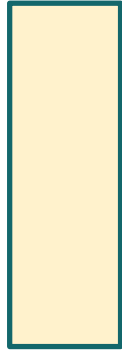
天女もはだし裸で逃げさんしよ、やつ

ちや／＼」とほめ詞。



Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

恋の



けてをく

喜作が



へ朱四朱三



か





Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

へ朱四朱三 あらそふ色をか
けてをく 喜作がきてんの
恋のつりわな





花扇邯鄲枕

「又露情様を争うてか、お二人の顔が悪い。」「はて悪うても如何しても、夏花は先の逢方。」「先でも萬でも此の冬菊は心意気。」「否左様はなるまい。」「誰が。」「私が。」とせりあふ中へ、「おつと見えた、合ざし合投げとたんのわれ喧嘩は貰ひ、爰で我らが智の字をふるひ、お二人様のお文を、是れ此の様に。」と、縁先の手拭かけに括り付け「是れでお敵の心を知る狐罌、露情様の見えるまで、奥で飲まう。」とそゝり立つ。



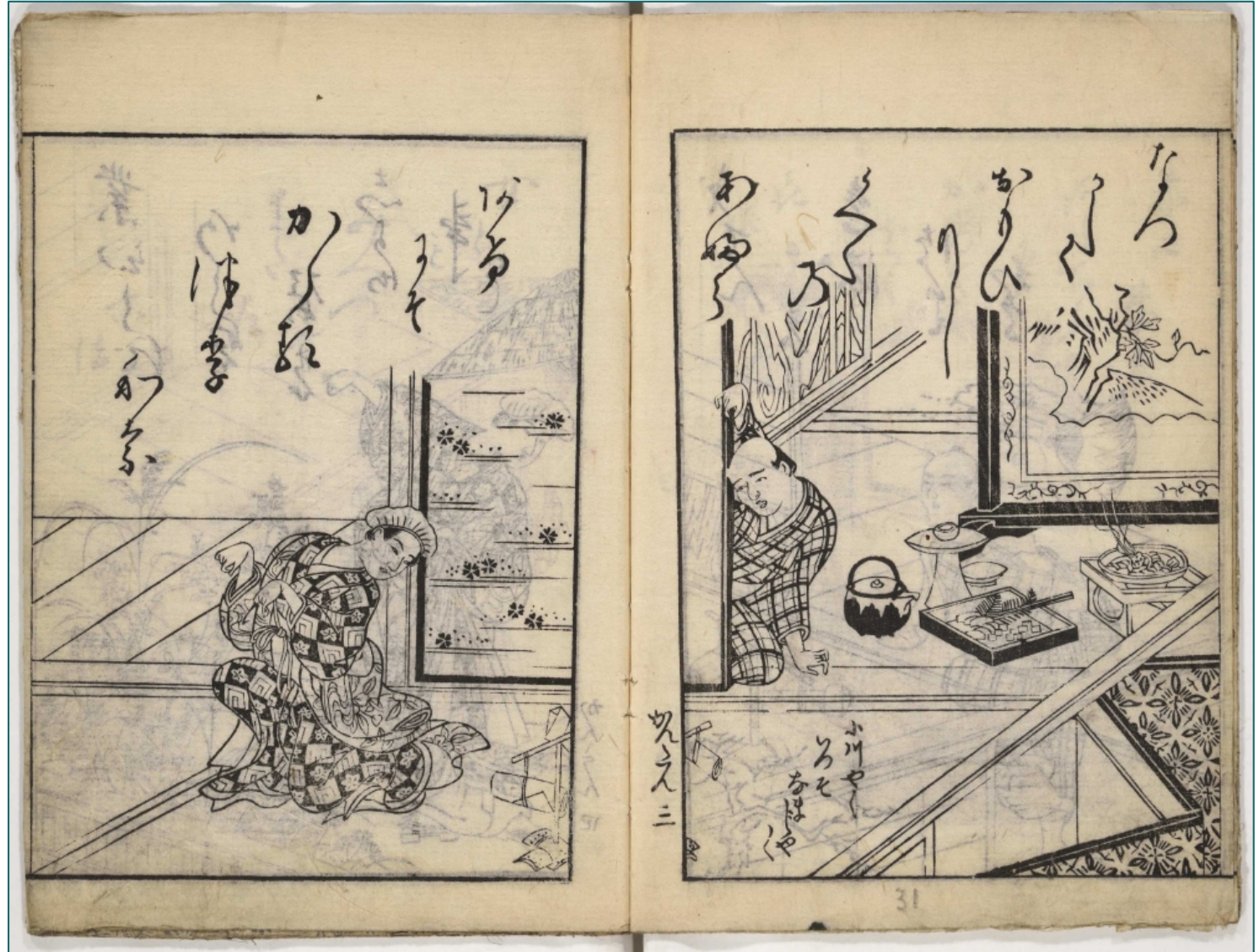
Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

なつかしく

あぶらあげにぞ

かゝるつりわな

小川や／＼いつそなま(生)じや／＼





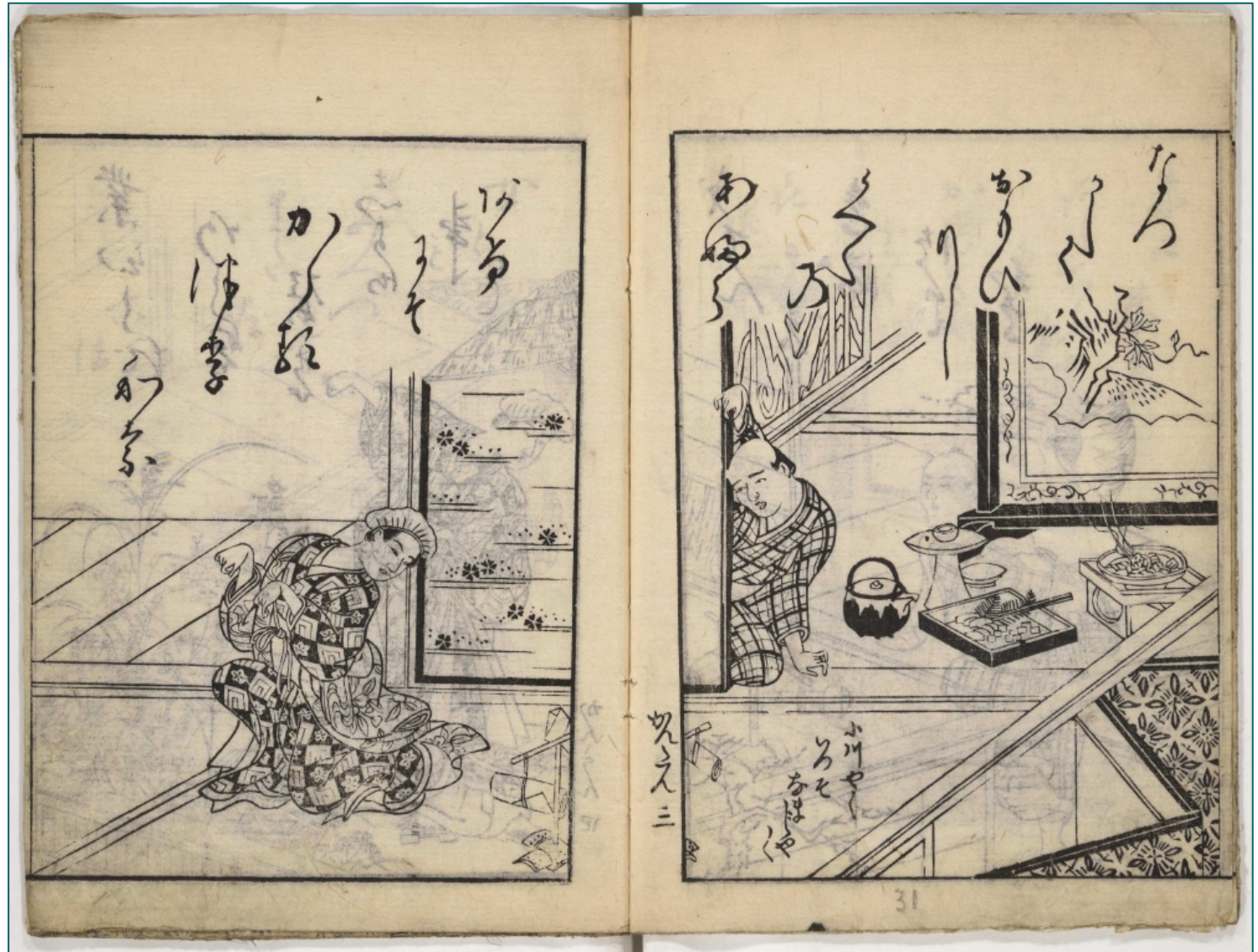
Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

なつかしくおもひまゐらせ候

久／＼のあぶらあげにぞ

かゝるつりわな

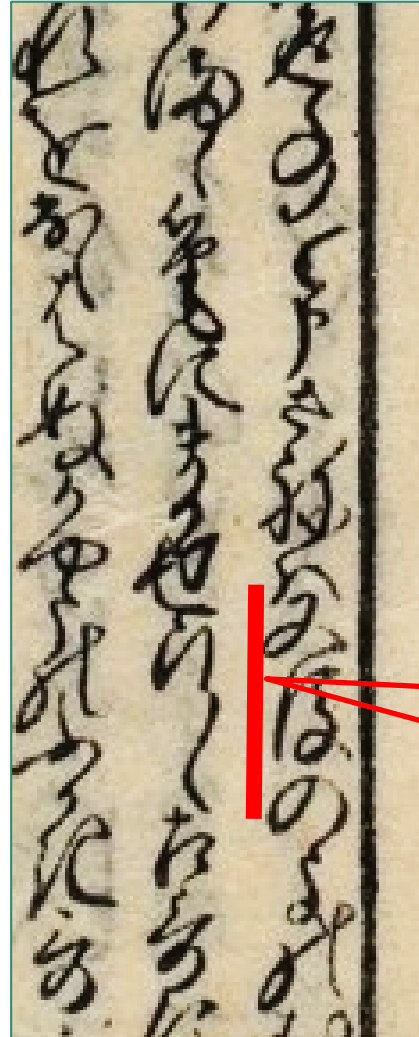
小川や／＼いつそなま(生)じや／＼



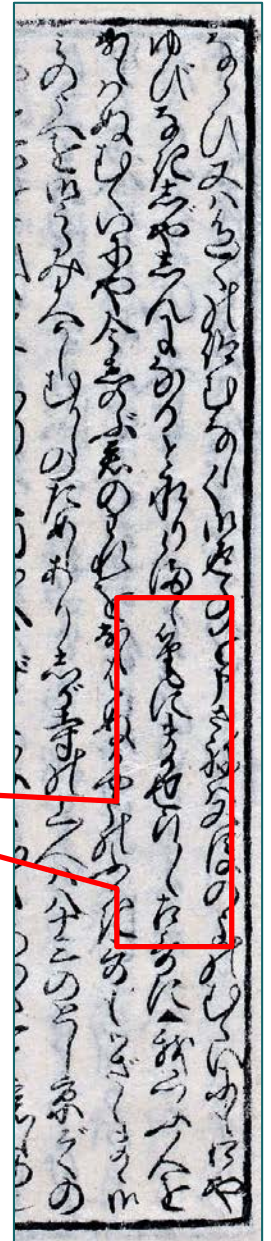


書簡体文字

合略仮名



薄雪物語



候の畧字

(さふらふ)

候の畧字

奉の草體きの畧字

(まゐらせ)

被の畧字

よりの合略字

さほの合略字 (さま)

花扇邯鄲枕

夜昼通ふ、露情大尽、色と酒とのもんじが座敷、酔狂閣や阿房殿の、常附の間に入りける。爰に喜作が才覚にて、心を引き見る二通の文、手拭掛にかけ置いたり。「アア恐ろしの傾城の心や、おれが心を見ん為に、正真の狐罌、思ひまいらせ候べく候の油揚げぶら／＼、何ぢや冬菊より、夏花より、又憎うはないう物、開いて見よう、いや／＼こちらを見れば、あちらが恨めよ、あちらを見れば、こちらが恨みん、所詮此の文見ずに歸らう。」往のやれ、我が住む宿へ歸ろやれ、足中を爪立て、ちよこ／＼と爪立て、「ア、思へば、二人の君が心のたけを書きたる文、ア、儘よ。いやいや只恐ろしい、ふつつと止めよ、イヤやめまい」と、行きては歸り、歸りては足もしどろに行悩む。喜作いそ／＼、「ヤア旦那、白蔵主のお身振、どうも／＼中々罌にかゝらぬ、

(略)





Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

女どもみへづ また左六法
業ひらにあらぬ姿の





Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

業ひらにあらぬ姿のしよさ事も
女どもみへづ また左六法





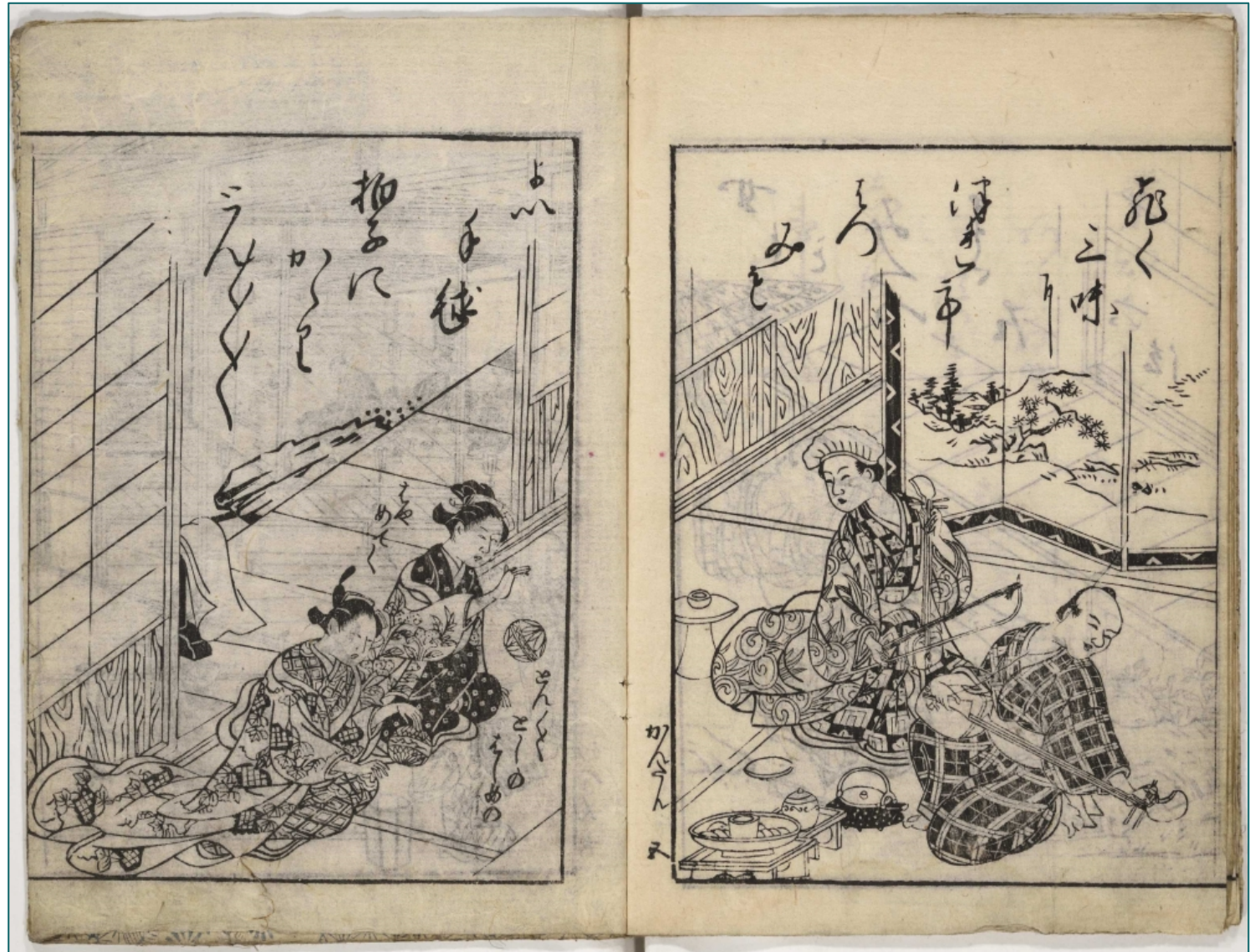
花扇邯鄲枕

「（略）互に悵氣の花摺衣、片袖許り打ちき
せて、きせて雉子の雌様、片袖は雄様、比翼
の取りなり所望々々、我らは又下男」と、え
さし箒に路次笠も、待てば甘露の日傘、機転
利かしてさしかくれば、「コリヤ出かした、
是れで二人が恨みも有るまい、太夫とおれが
二人前」、左六法右小褰、姿もしやんと振り
分けて、限り知られぬ、六法アリヤコリヤ、
思ひの淵よ、いつそ沈まば、此の身と共に、
六法沈む里はどこ／＼上の町下の町、中の／
＼中の町を通り掛けに、なんと太夫、久しや
／＼。お前も御無事で嬉しや／＼。



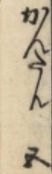
手毬拍子にかゝりとん／＼／＼／＼／＼

三味に
はづみもよい





ひく三味につれてはづみもよい
手毬拍子にかゝりとん／＼／＼／＼／＼／





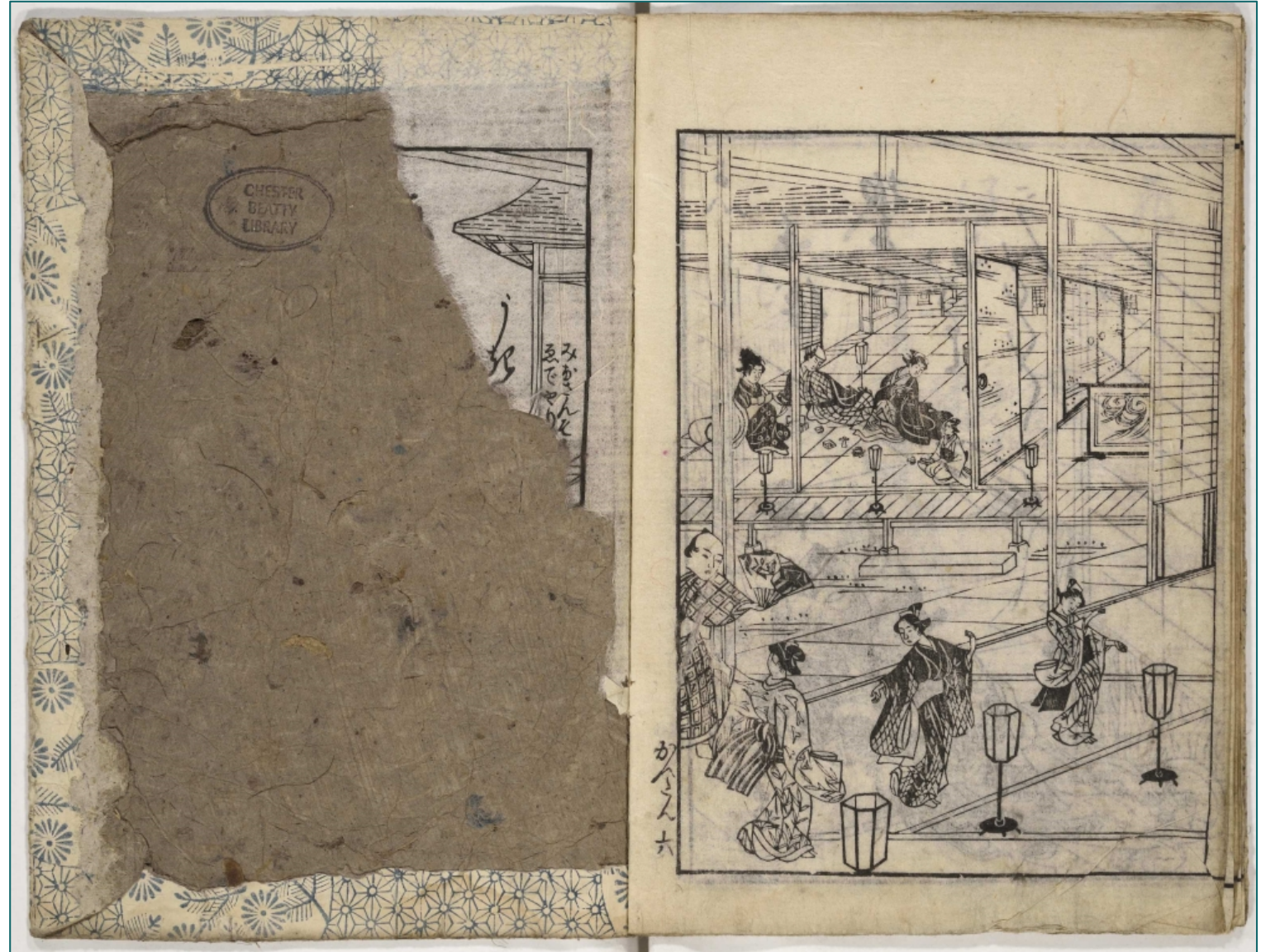
花扇邯鄲枕

「よいや露情様の振分け姿たまらぬ／＼、何を
かくさうお前の事で、二人の君も修羅のたね、
唐土の玄宗皇帝は、双六の勝負にて、楊貴妃、
虞氏君の後定め、**例を引いて二人の君に、手鞠**
つかせて、相方定め」、「よからう／＼おれを
だかうと抱くまいと、ほんのふたりが肩次第精
一ぱいにつかせい／＼」、あつと障子を押し開
けば、かねて趣向の夏花、冬菊、色を争ふ真紅
の糸、鞠も心もはずまして、勝たばいやおうい
はさぬと、恠気妬みの千鳥がけ、手玉もゆらに
つきそむる、「**旦那は鼓弓、****我らが三味も、不**
調頼桁たゝき次第／＼」、出次第の音メに合は
す手鞠歌、「とん／＼／＼、とんと諸国の、恋
のわけ里、数へ数へりや、武士も道具も伏せ編
笠で、張と意気地の吉原（略）」



Hanaogi kuruwa kantan, CBL J 1703.2

うき
□
みなさんそ
□
ゑでやり
□





Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662



月次のあそび CBLJ1662

【書誌】刊本。図は墨摺り。装訂、袋綴（4つ目綴じ）1冊。27.0×18.7cm。表紙、後補表紙、丹色花菱亀甲つなぎ地に雲龍模様空押。外題、「十二月品さだめ全」（左上、後補書題簽）。丁数、20丁。構成、序半丁、見開き図18図18丁、半丁図2図1丁、刊記半丁。刊記「元禄四年末五月吉日／日本絵師菱河吉兵衛師宣／大伝馬町三町目 鱗形屋開板」。識語「別本二左ノ奥付アリ／延宝八申歳七月吉日／大和絵師菱川師宣／柏屋与市開板」（墨書、最終丁ウラ右側余白）。蔵書印、円印（魁星印か、第1丁オモテ）、「林忠正印」（白文方印、林忠正。第1丁オモテ・最終丁ウラ）、「福田文庫」（子持野杵朱文長方印、第1丁オモテ・最終丁ウラ）、「養間斎蔵書記」（朱文長方印、第1丁オモテ）、不明白文方印2個（最終丁ウラ）、「JEANSIEGLER」の蔵書票（表裏見返し）。

【内容】菱川師宣の月次当世風俗絵本。識語にあるとおり、延宝8年（1680）7月刊、柏屋与市版が初刻本（現在、東京大学附属図書館蔵本のみ確認されている）であり、CBL本はその再刻本。再刻に際し、初刻の8丁ウラ9丁オモテ「ほととぎすを聞く隠者」、16丁ウラ17丁オモテ「紅葉狩」、17丁ウラ18丁オモテ「重陽の節句」を削除し、刊記を改めている。

本書は、師宣絵本中でも重要なものであり、肉筆画の「江戸風俗図巻」（数種あり）や「十二か月風俗図巻」（静嘉堂文庫美術館蔵）との関連も注目される。CBL本は、題簽こそ失われているが、状態良好の善本。



【テキスト】

※ 『月次のあそび（十二月品さだめ）』 Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662 〔前半〕
https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_1662/1/

序文（2／23）、四つの海～（3／23）、きさらぎ中の五日～（6／23）、卯月八日しやかによらい（9／23）、五月五日あやめのせつく～（10／23）



Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662

※養間斎蔵書記（蔵書家養間斎こと幕府医官小野長年旧蔵）

※福田文庫（福田敬園、幕府味噌御用達〔三村竹清『本の話』〕、丸山季夫は『静嘉堂蔵書印譜』に「福田敬同、号槐尚軒、山名義理22代目所用」と記す。）

※魁星印（未詳）

※林忠正印（明治時代に活躍した日本の美術商の蔵書印）





Collectors' Seal Database

蔵書印データベース / 篆字部首検索システム(テキスト検索版)

国文学研究資料館 / 電子資料館 / [蔵書印DBトップ](#) / 篆字部首テキスト検索

篆字部首検索システム（テキスト検索版）

漢字（1文字）・漢字構造

検索例：一 厂 冂 イ 儿 ㄣ リ 勹 宀 尸 口 凵 卩 巾 彳 丰 シ ヨ 艸 彡 彣 廴 幺 广 升 ネ 月 女 戈 灬 爻 衤 疒 夆 禾 隹 （[康熙字典一覽](#)）

1画 / 一 丶 ノ 乙 乚
2画 / 二 亅 人 儿 入 八 冂 冫 ン 几 凵 刀 力 勹 匕 匚 匚 十 ト 尸 厂 ム 又
3画 / 口 口 土 土 夕 夕 夕 大 女 子 宀 寸 小 尤 尸 巾 山 𠂇 工 己 巾 干 幺 广 廴 升 弋 弓 厶 彡 彳
4画 / 心 忝 戶 手 耑 耑 立 斗 扌 扌 干 干 月 木 欠 止 歹 爻 母 比 毛 氏 气 水 火 爪 父 爻 片 片 牙 牛 犬

https://base1.nijl.ac.jp/~collectors_seal/seal_script/tensho.pdf



2021/03/31増補

難読篆書字形表

— 主な難読字と頻出字 —

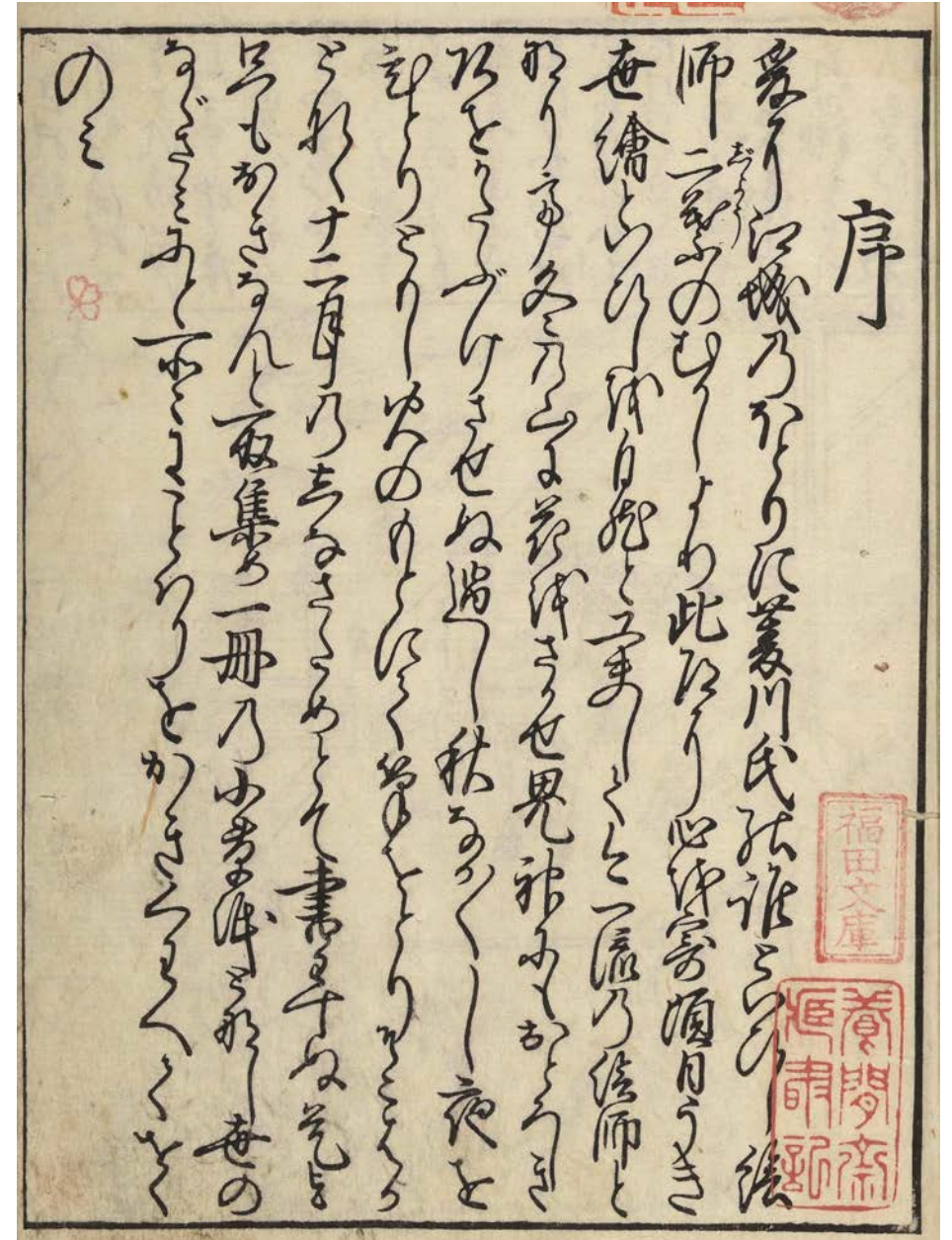
益満新吾監修

蔵 (蔵)	藏 [○]	臧 [※]	𨾏 [※]	臧 [※]	𨾏 [※]	小篆 (以下略)
	𨾏 [※]	臧 [※]	臧字通用 [※]			
書	書 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]
	𠂔 [○]					
印	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	
	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	

中	中 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]
以	巳 [○]	𠂔 [○]			
其	其 [○]	其 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]	
平	𠂔 [○]	𠂔 [○]	𠂔 [○]		
主	主 [○]	主 [○]			



Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662



序

爰に江城のほとりに菱川氏の誰といひし絵

師二葉のむかしより此道に心を寄頃日うき

世絵といひしを

過し秋なが／＼し夜を

ひとりともし火のもとにて筆をとり

十二月のしなさだめとて書卒ぬ是迄

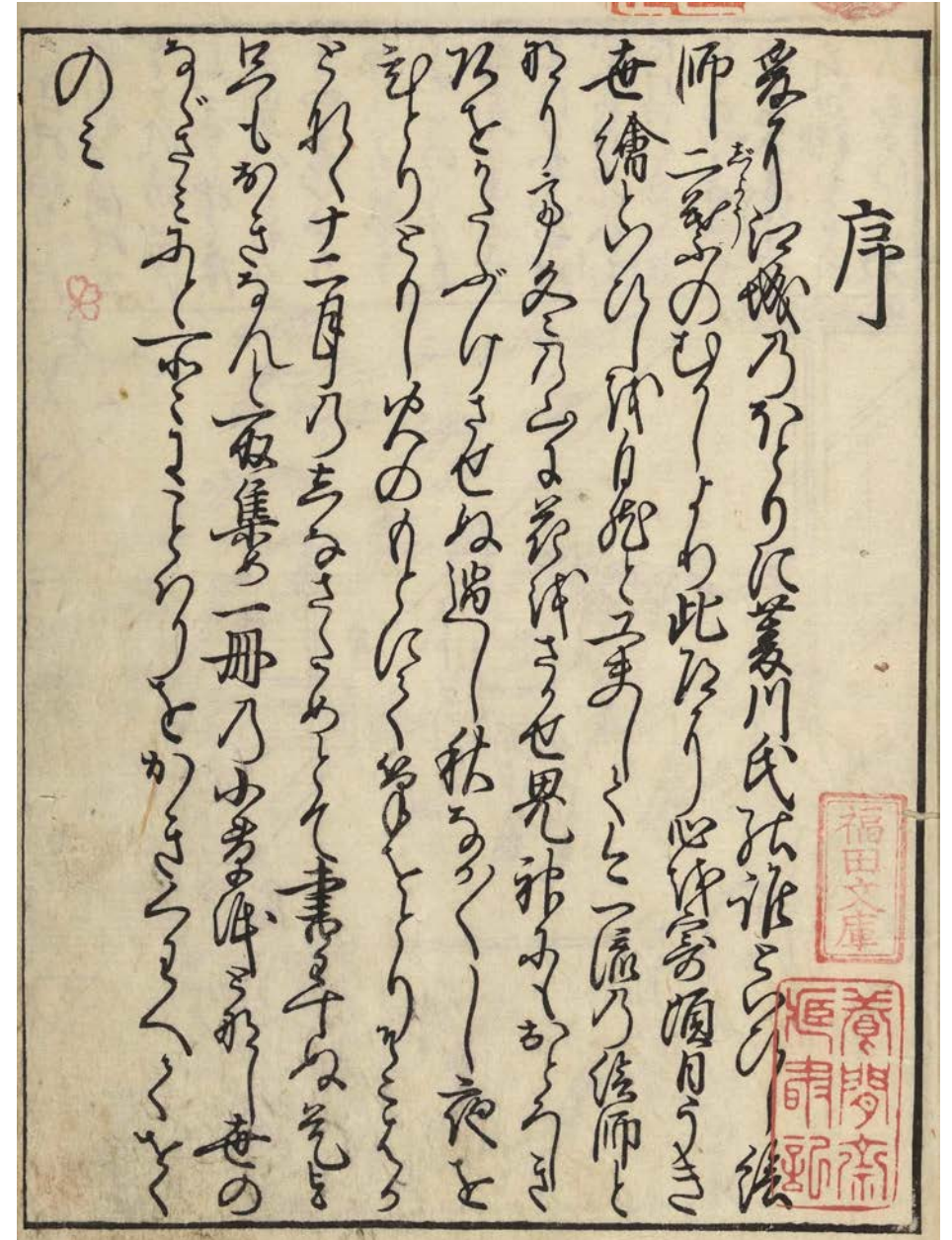
只もおきなんと取集め一冊の小草紙となし世の

を

くのみ



Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662



序

爰に江城のほとりに菱川氏の誰といひし絵
師二葉のむかしより此道に心を寄頃日うき
世絵といひしを自然と工夫して今一流の絵師と
なりて冬の山に花をさかせ鬼神にもおどろき
頭をかたぶけさせぬ過し秋なが／＼し夜を
ひとりともし火のもとにて筆をとりそこはか
となく十二月のしなさだめとて書卒ぬ是迄
只もおきなんと取集め一冊の小草紙となし世の
なぐさみにと所々にことはりをかきくわへてを
くのみ





Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662

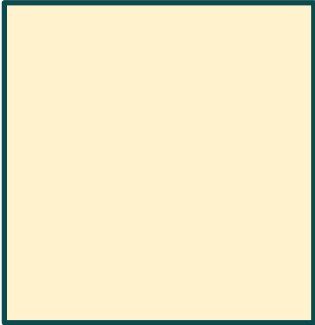
○四つ海なみの
おともなく国の土
うごかず治る御代
もむさし野、広
き御めぐみあり
がたや君／＼たり
臣／＼たり既に
日本国中の
御大名御ふだい相
伝の御れき／＼官
位／＼の御しやうぞく
にて御登城をな
され御礼あるそれ
よりしだい／＼に先
規の例をそれ

規の例をそれ
くはれそのあそ
び御礼あるそれ
より五か日のその内は
上下大手に往還し
て我さきにと御礼
のおさまる御代ぞ
めでたけれ

○四つの海なみの
おともなく国の土
うごかず治る御代
もむさし野、広
き御めぐみあり
がたや君／＼たり
臣／＼たり既に

日本国中の

御大名御ふだい相
伝の御れき／＼官
位／＼の御しやうぞく
にて御登城をな
され御礼あるそれ
よりしだい／＼に先
規の例をそれ
／＼に御礼そのほか貴
僧出家しよ社の
神主ねぎあま町
人舞まひ御能役
者おもひ／＼に元朝
より五か日のその内は
上下大手に往還し
て我さきにと御礼
のおさまる御代ぞ
めでたけれ





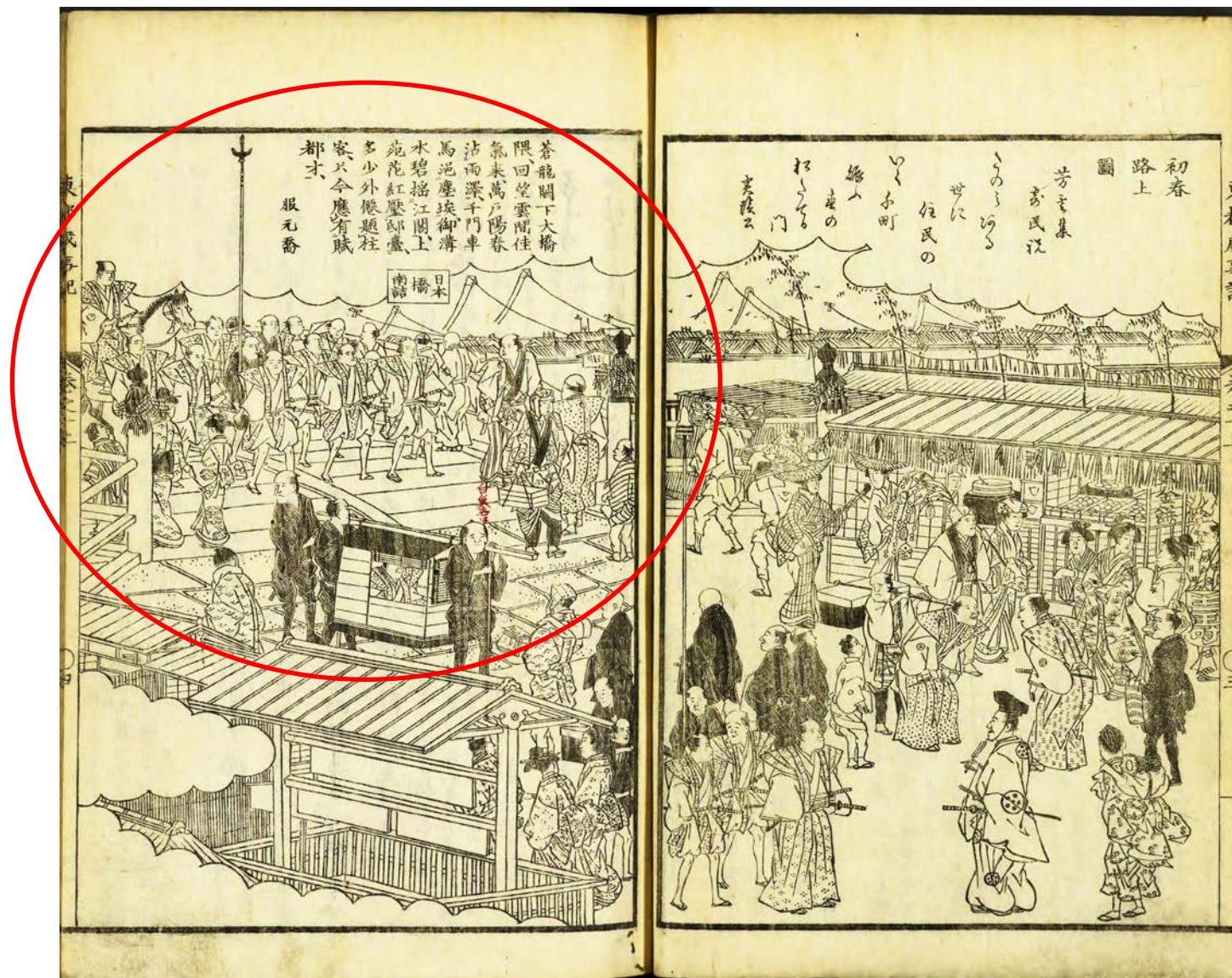
親の例とてこれ
 くにれよのちを
 傍の例とてこれ
 祐の例とてこれ
 人衆の例とてこれ
 君の例とてこれ
 よりよき例とてこれ
 下なる例とてこれ
 上なる例とてこれ
 乃ちの例とてこれ
 乃ちの例とてこれ

山崎氏乃
 松の葉
 山崎氏乃
 美

○四つの海なみの
おともなく国の土
うごかず治る御代
もむさし野ゝ広
き御めぐみあり
がたや君／＼たり
臣／＼たり既に
はやそのとしも
あらたまる春にもな
れば日本国中の
御大名御ふだい相
伝の御れき／＼官
位／＼の御しやうぞく
にて御登城をな
され御礼あるそれ
よりしだい／＼に先
規の例を以てそれ
／＼に御礼そのほか貴
僧出家しよ社の
神主ねぎあま町
人舞まひ御能役
者おもひ／＼に元朝
より五か日のその内は
上下大手に往還し
て我さきにと御礼
のおさまる御代ぞ
めでたけれ
ゝ御当地の
松の葉
わけや
諸国の春



(参考) 東都歳事記



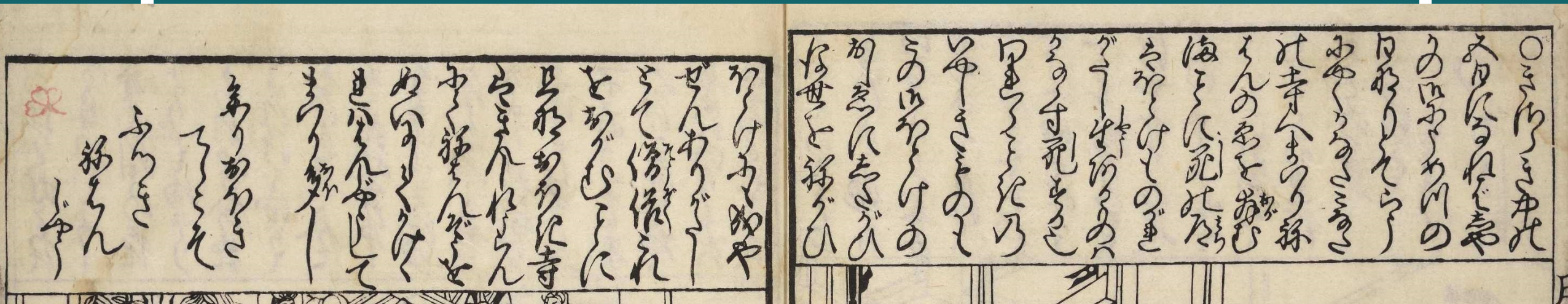
【新春】

新春、江戸では武家も町方も年始の挨拶のため、年礼に回る。元日には、ほとんどの商家が戸を閉ざして休業したので、普通は、二日から行われた。





Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662



まことに死の道

はほとけものがれ

がたし生あるものは

かならず死する也

われらごとき

いやしきものも

この御ほとけ

おしゑにしたがひ

後世をねがひ

ほとけにも成や

せんありがたし

とて僧俗これ

をおがむことに

旦那おほき寺

は

にてねはんぞうを

ぬいにしてかけ、

ればはんじやうして

まいり多し



Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662

○きさらぎ中の
五日になればしや
か(釈迦)の御にうめつの
日なりとてらう
にやく(老若)かなたこなた
の寺へまいりね
はん(涅槃)のゑを拝む
まことに死の道
はほとけものがれ
がたし生あるものは
かならず死する也
われらごときの
いやしきものも
この御ほとけの
おしゑにしたがひ
後世をねがひ
ほとけにも成や
せんありがたし
とて僧俗これ
をおがむことに
旦那おほき寺
はきんしれうらん
にてねはんぞうを
ぬいにしてかけ、
ればはんじやうして
まいり多し
〽参りおほき
てらこそ
ふつき(富貴)
ねはんじやう

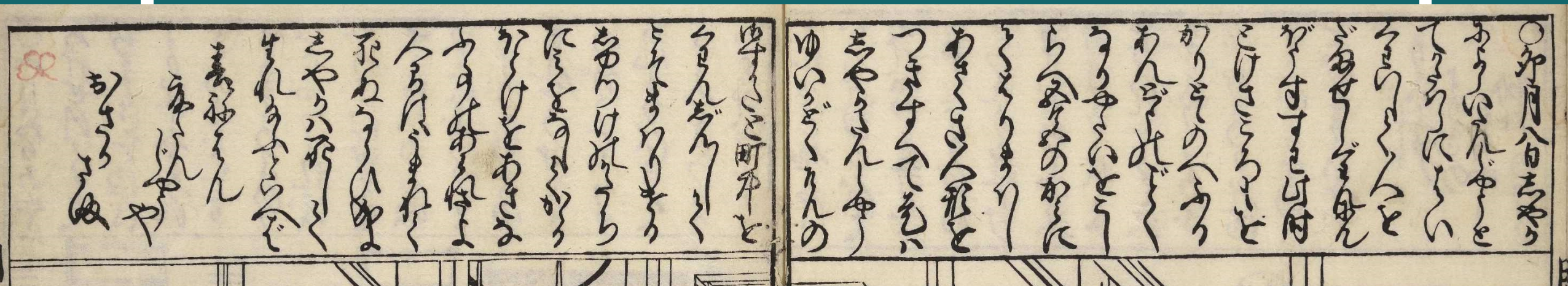
〽参りおほき
てらこそ
ふつき(富貴)
ねはんじやう

○きさらぎ中の
五日になればしや
か(釈迦)の御にうめつの
日なりとてらう
にやく(老若)かなたこなた
の寺へまいりね
はん(涅槃)のゑを拝む
まことに死の道
はほとけものがれ
がたし生あるものは
かならず死する也
われらごときの
いやしきものも
この御ほとけの
おしゑにしたがひ
後世をねがひ
ほとけにも成や
せんありがたし
とて僧俗これ
をおがむことに
旦那おほき寺
はきんしれうらん (金糸繚乱)
にてねはんぞうを
ぬいにしてかけ、
ればはんじやうして
まいり多し
〽参りおほき
てらこそ
ふつき(富貴)
ねはんじやう





Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662



○卯月八日しやか

によらいたんじやうと

てかたはらにはい

くわいして人を

だませしぐわんにん

ぼうずすわ此時

とけさころもを

かりとゝのへふる

あんどうのごとく

なるやたいをこし

らへ

あさくさ人形を

つきすへて

ゆいがどくそん

御すがたと町中を

くわんじん（勸進）して

こそまはりける

人間はうまれて

死ぬならひ成に

しやかは死して

生れ給ふといへば

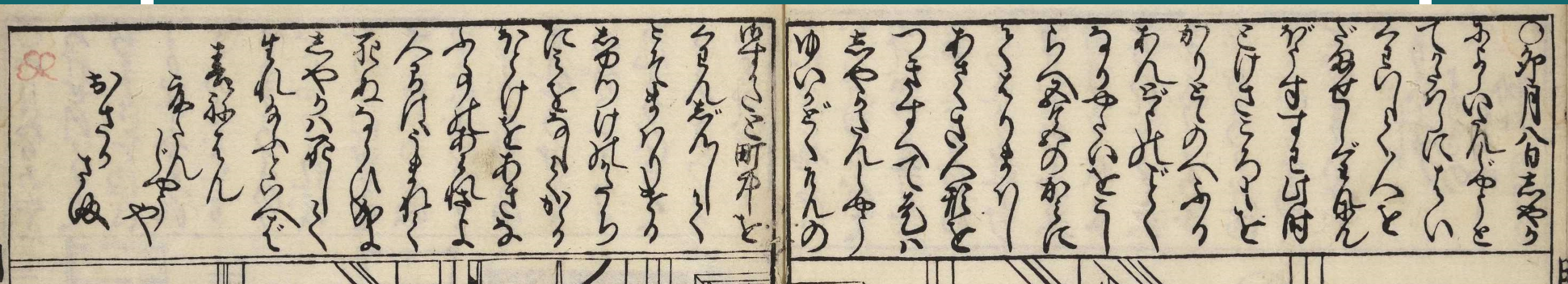
〱春ねはん

夏たんじやうや

おさかさま（お釈迦様）



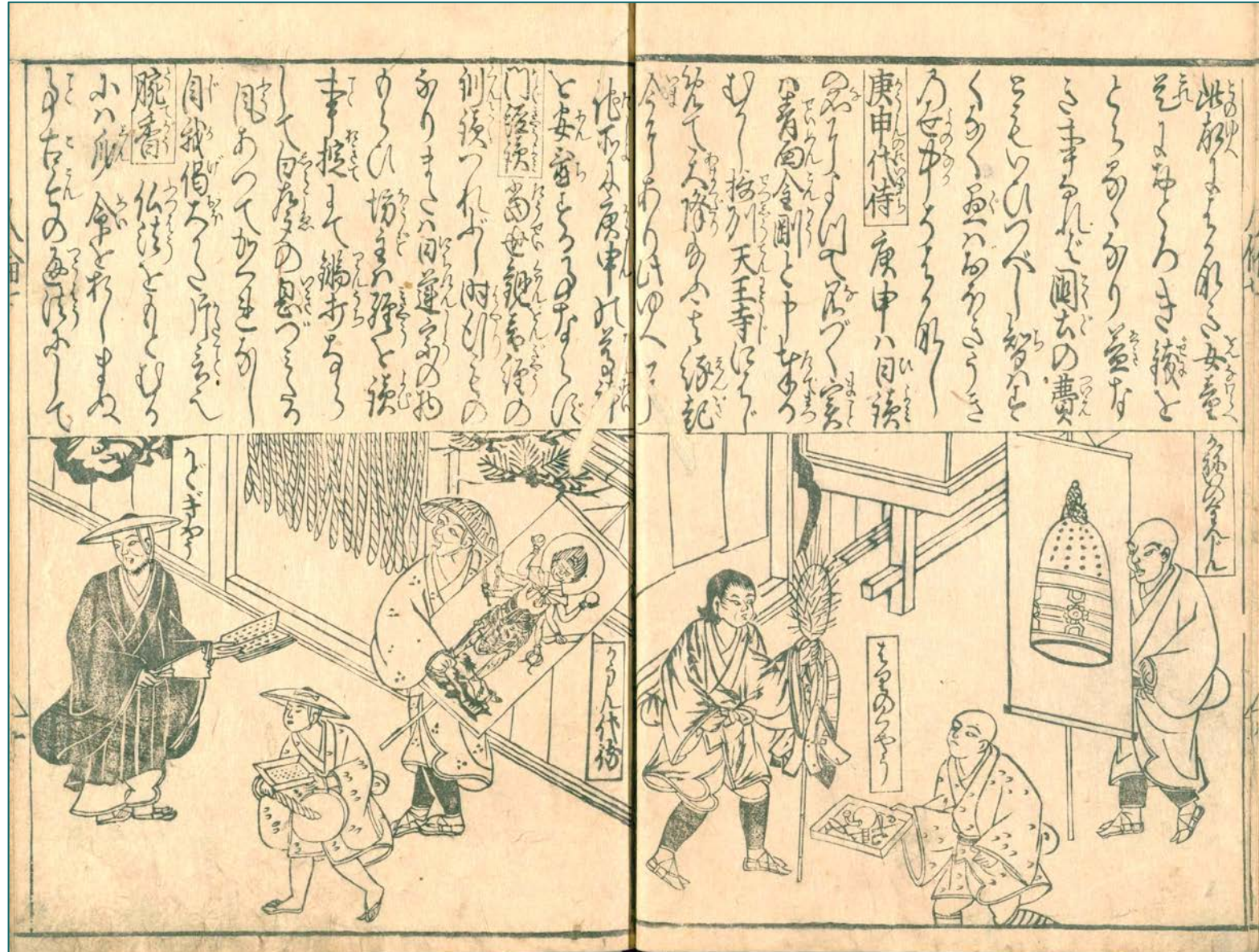
Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662



○卯月八日しやか
によらいたんじやうと
てかたはらにはい
くわいして人を
だませしぐわんにん
ぼうずすわ此時
とけさころもを
かりとゝのへふる
あんどうのごとく
なるやたいをこし
らへ五色のかみに
てはりまはし
あさくさ人形を
つきすへて是は
しやかたんじやう
ゆいがどくそん（唯我独尊）の
御すがたと町中を
くわんじん（勧進）して
こそまはりける
しゆつけのかたち
にみをなしてかゝる
ほとけをあきな
ふ事のあはれさよ
人間はうまれて
死ぬならひ成に
しやかは死して
生れ給ふといへば
〰春ねはん
夏たんじやうや
おさかさま（お釈迦様）



(参考) 人倫訓蒙図彙





我儘のそと
 よひもれど
 そとけりし
 んもあされ
 ておちあす
 らうまふ
 んあつせん
 まうかへら
 ておちあす
 たくせん
 うわ
 ひさあは
 うのかりや
 りのあがり
 もあつた
 人ごころ
 あいの
 うきうき

かぶとかな



Monthly activities (Tsukinami no asobi), CBL J 1662

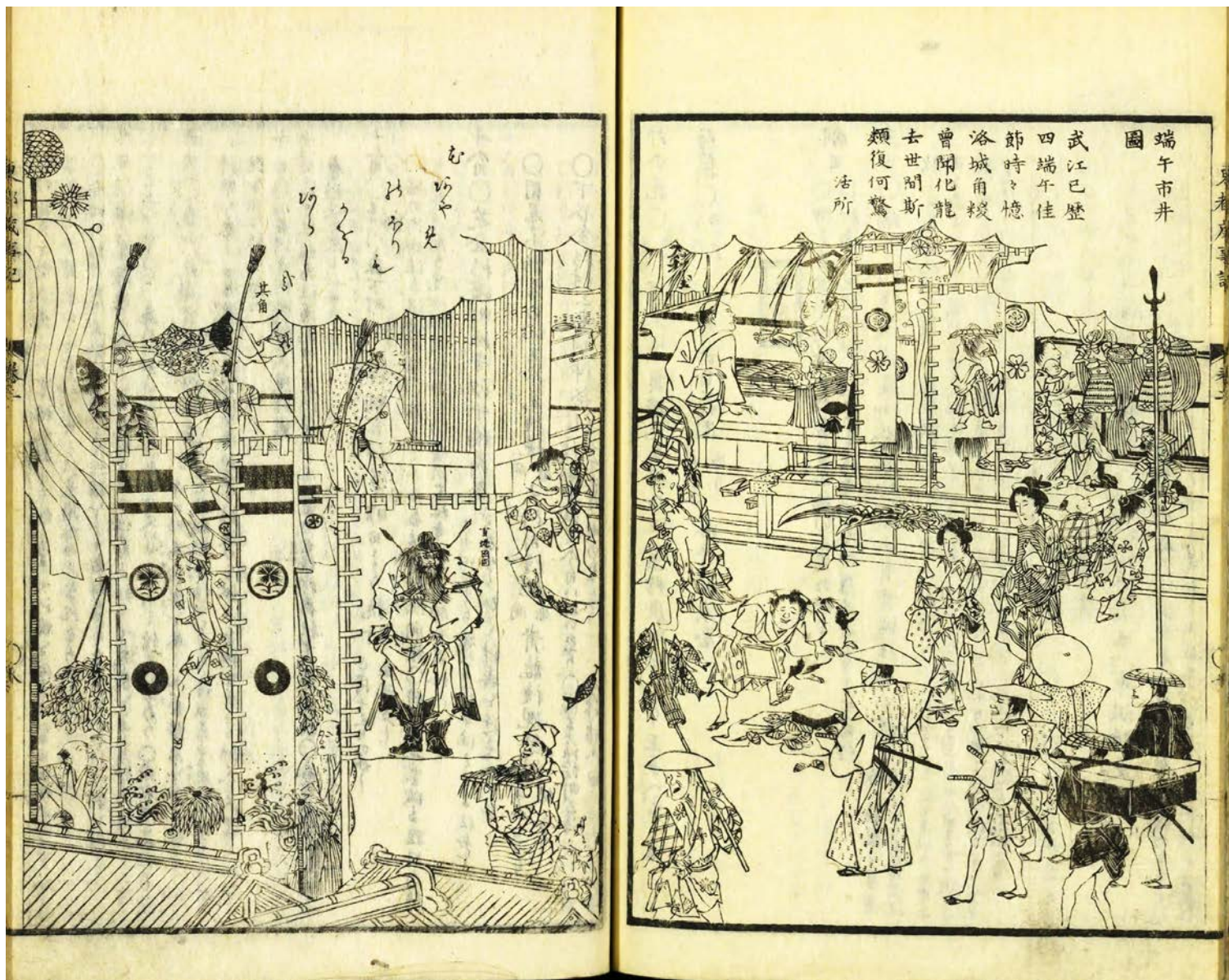
○五月五日あや
めめめめめめ
ちまきとぬき
よもぎしやうぶに
のきばをか
ざるそめかたびら
をちやくし礼儀
をつとむ男子を
てうあひのあま
りにかぶとを
かざり家／＼の
もんをつけて
のぼりをたつる
風になびきて
さゝめきわたる
わこくのふうぞく
戦場のそなへ
にひとしければ
そらをかけるつ
ばさもおそれ
て羽をやすめ
たつ事をうしなふ
見物のきせん
わうくわん（往還）にみち
てにぎわふ事
たとへていわん
事なし
へひぞう子に
たつるのぼりや
ちのあまり
へうりゑしは
人をはり
ぬきの
かぶとかな

○五月五日あや
めのせつくとて
ちまきをまき
よもぎしやうぶに
てのきばをか
ざるそめかたびら
をちやくし礼儀
をつとむ男子を
てうあひのあま
りにかぶとを
かざり家／＼の
もんをつけて
のぼりをたつる
風になびきて
さゝめきわたる
わこくのふうぞく
戦場のそなへ
にひとしければ
そらをかけるつ
ばさもおそれ
て羽をやすめ
たつ事をうしなふ
見物のきせん
わうくわん（往還）にみち
てにぎわふ事
たとへていわん
事なし
へひぞう子に
たつるのぼりや
ちのあまり
へうりゑしは
人をはり
ぬきの
かぶとかな





(参考) 東都歳事記





それではこのセッションを終わりにします